

外周道路の利用



駐車スペースを新たに設置

2013/7/1

万行地区 アンケート調査集計

21

助け合い関係の一例



複雑に入り混じっている
遠くの人を助けに行くケース
海に向かうケース

2013/7/1

万行地区 アンケート調査集計

22



万行地区シミュレーション 概要

- **課題編**
 - 耐震強度のある住宅: 最も早い場合地震発生から3分で避難開始
 - 耐震強度のない住宅: 地震発生から8~13分後の間に避難開始。(※3分)
 - 避難意識の程度によって更に時間を調整
 - 180人の住民が津波に追いつかれる。(全住民578人の約31%)
- **解決編①: 耐震強度のない家の避難開始時間を地震から8分後に**
 - その手段は、耐震補強&家具固定&非常持出袋&自転車バイク隊による率先避難
 - 143人の住民が津波に追いつかれる(課題編マイナス37人)
- **解決編②: 要援護者を近所の人が助けるリヤカー隊と、乗合タクシー&バスを導入**
 - 98人が津波に追いつかれる(解決編①マイナス45人)
- **解決編③: 「芝の山」に向かう人は地震発生から10分、「入野小」に向かう人は地震発生から13分までに地区を出られない場合、タワーに進路変更**
 - 手段は防災行政無線、タワーからの呼びかけ
 - 全体では、20人が津波に巻き込まれる(解決編②マイナス78人。その全てが、「逃げない」などと避難をあきらめた住民)

付録：防災ゲーム「クロスロード」

48 あなたならどうする？ 災害カードゲーム「クロスロード」

災害時のことをさまざまな立場に立って想定して考えるカードゲーム「クロスロード」のやり方と、使用する道具類の説明を行った後、実際にみんなでクロスロードを行います。

！ 災害時に行うべき対応を自らの問題として考えます。また、他の人のさまざまな意見や価値観をみんなで共有します。

英語内容

対象人数 5～40人 (1グループ 5～8人)

事前準備

① 対象人数とグループ数 (1グループ5人を基本とします。グループの人数は多少の差は問題ありませんが、多数派・少数派を確保するため、各グループでグループをつくり、グループ数は会場の大ささと人数に応じて何グループでも柔軟可能です。

② 会場準備 / グループで話し合いのできる机と椅子が必要になります。グループ同士は、それぞれの話し合いの音が邪魔にならない程度に離れていることが望ましいです。なお、事前にグループ分けをしておきます。

③ クロスロードとは → 英語で「選択」を意味しています。災害が起こる前、または起こった後の対応には、多くのシナリオや判断が必要になります。このクロスロードは、シナリオのカードを使用して、ゲーム感覚で災害への備えや災害後に起こる様々な問題を自らの問題として考えることができ、かつ、自分と異なる意見や価値観の存在に気づくことができるものです。

2 クロスロードの実施

① ルールの説明 (10分)

ゲームは問題カードとイエスカード・ノーカード各1枚ずつのカードを使って行います。プレイヤーは1人ずつ順番に問題カードを読み上げます。カードが読み上げられるごとに、プレイヤーは全員読み上げられたカードの内容について、自分の意見がイエスか、ノーかを考えます。自分の意見がイエスならイエスカードを、ノーならノーカードを裏向きにして、自分の机の前に置きます。グループの全員がカードを置いたら、一斉にカードを表向きにします。表向きになったカードを確認して、多数派のプレイヤーが得点を表す青い座布団を手に入れることができます。問題カードをすべて読み終えた時点で、最も多くの座布団を持っている人が「勝ち」となります。

② ゲームの実施 (50分)

では、これから実際にクロスロードを行ってみたいと思いますが、まずは各グループで10分ほど練習をしてみましょう。最初に問題を読み上げる人を決めて、問題を読み上げる順番に決まったら、好きな問題を選び、グループ全員に問題が読まれるように大きな声で読み上げてください。④問題の読み上げ

【全グループが問題を読み上げた後】では、各グループで出題された問題に対して、自分の意見がイエスなら「イエスカード」を、ノーなら「ノーカード」を選び、自分の机の前に裏向きにして出してください。⑤カードの選択

【グループの全員がカードを出し終えた後】では、全員で一斉にカードを表にします。いいですか、一斉に表にしてください。⑥イエス・ノー、どちらが多数派かを確認

英語内容

では、今の問題でなぜ自分がイエスを出したのか、またはノーを出したのか、意見を話し合ってください。グループ全員で他の人がどのような判断をしたのか意見交換をしてみてください。⑦意見交換

【グループの全員が意見を述べた後】以上が、一連の流れになります。では、以上のような形で、残りの問題を各グループで進めてください。なお、各問題が終わった後は、必ず全員がなぜ自分がイエスorノーのカードを出したのか、順番にその理由について話し合いをし、他の人の意見を聞くようにしてください。⑧問題カードすべてを実施

⑨ まとめ・振り返り (30分)

【問題が終わった後】座布団の数を数え、誰が一番多かったか、誰が一番少なかったかを確認してください。そして、なぜそのような結果になったのかをみんなで話し合ってください。また、全座布団を持っている人がいるかどうか、またいる場合には、なぜ全座布団がとれたのかを各グループで話し合ってください。

また、問題の中で、これはすごく迷ったという問題はなかったか、これはすぐに答えが決まったという問題がなかったかなどについて、グループのみんなで話し合ってください。

指導ポイント

クロスロードの問題に正解はありません。したがって、座布団の多少によるゲームの勝敗が大切なものではありません。むしろ、各問題に対して自分がイエスもしくはノーを選んだのか、また他の人はどうしてイエスもしくはノーを選んだのかを知り、いろいろな考え方が存在することを知ってもらうことが大切です。また、物事の捉え方により、いろいろな価値観があることもあわせて知ってもらえるように議論をふくらませてあげることが大切です。

自主防災組織の関わり方

子どもと一緒に考えてみてください。

準備するもの (目安)

準備品	数	備考
資料「防災ゲーム「クロスロード」とは？」	各グループに1セット	資料48-1
問題カード	各グループに1セット	
イエスカード、ノーカード	各人にそれぞれ1枚	プレイヤーの人数分準備
座布団カード (青座布団)	プレイヤーの数×10枚程度	グループの数の中央に並べておきます
座布団カード (金座布団)	適量 (プレイヤーの人数と同程度)	グループの数の中央に並べておきます

※クロスロードは、京都大学生協 (<http://www.s-coop.net/>)、または、<http://www.s-coop.net/rune/bousai/crossroad.html> で販売しています。

※参考資料も参照してください。

家庭への持ち帰り

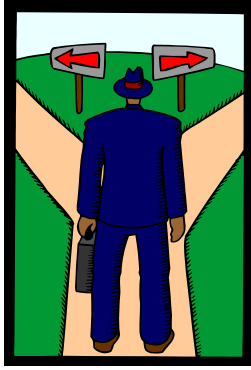
同じ問題を家に持ち帰り、家族の人と話し合いをしてください。

ひと工夫

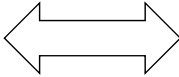
自分の見解でイエスカードを決めるだけでなく、他人の意見を推測して、座布団をとるためにあえて多数派になりそうなカードを出すというの一手です。このような考えを伝えることにより、他人の考えを広くとることができるようになります。自分の考えについても演習を深めるようになります。

「クロスロード」サンプル 津波編 (市民編)

- あなたは..... 海辺の集落に住む住民。
- 地震による津波が最短10分でくるとされる集落に住んでいる。今、地震発生。早速避難を始めるが、よく知っている近所のひとり暮らしのおばあさんが気になる。まず、おばあさんを見に行く？



YES
(見に行く)



NO
(見に行かない)

防災教育ツール&参考書のご案内

■「クロスロード」

「クロスロード」とは、英語で「岐路」、「分かれ道」を意味しています。災害が起こる前の備え、また起こったからの対応。そして、被災からの復旧・復興過程では、多くのジレンマ（「あちらを立てればこちら立たず」）を伴う重要な決定が必要になります。

「クロスロード」は、トランプ大のカードを使用して、ゲーム感覚で災害への備えや災害後に起こる様々な問題を自らの問題として考えるための防災教育教材（ゲーム）です。しかも、グループで進めるゲームなので、単に、自然災害や防災についての知識を高めるだけでなく、自分とは異なる意見や価値観への気づきも得られます。さらに、意見交換や討論を通じて、わが家、わが街の防災について、みんなで合意を作っていくための基盤となる教材です。



◆市販されている「クロスロード」

「クロスロード（神戸編・一般編）」 大セット（7000円）、小セット（2000円）
 「クロスロード（市民編）」 大セット（7000円）、小セット（2000円）
 「クロスロード（災害ボランティア編）」 大セット（7000円）、小セット（2000円）
 ＊いずれも、「解説書（マニュアル）」付。大セットは20人分、小セットは5人分のセット。

◆ご購入は

京都大学生協のウェブサイト（<http://www.s-oop.net/rune/bousai/crossroad.html>）
 生協の非組合員の方は、まず下記にtelでお問い合わせください。
 〒606-8317 京都市左京区吉田泉原町 京大西部会館 ブックセンタールネ 担当：大島
 電話：(075) 771-7336 FAX：(075) 751-8045

■「ぼうさいダック」

（大判500円、トランプ判300円、解説ビデオ1890円）
 幼稚園から小学校低学年の子どもの対象にした、画期的なお遊戯型の安全教育教材！自然災害だけでなく、火災、交通事故、誘拐など、身を守るための「最初の第一歩」を学びます



●制作：吉川肇子・矢守克也
 ●申込：テレビ朝日映像株式会社 営業企画局 「ぼうさいダック」事務局 〒1106-0032 東京都港区大木木1-1-1
 電話：03-3587-8150 FAX：03-3505-3781

■参考図書

●【近刊！】『巨大災害のリスク・コミュニケーション』（2013年8月刊予定）

なぜ人は災害情報があっても逃げないのか、ハザードマップはどうして使われないのか、新しい津波警報や気象情報は減災につながるのか、インフォメーションではなくコミュニケーションの視点から現代の災害情報に関わる諸課題の原因を鋭く究明し、これまでにない新しい処方箋を示した待望の書。【矢守克也（著） ミネルヴァ書房（価格未定）】

●『復興と支援の災害心理学—大震災から『なに』を学ぶか』

ポスト3.11の今、被災地の復興、支援はどうあるべきなのか、心の復興・コミュニティの復興・社会と文化の復興、3つの角度からその課題と可能性を探る。畑村洋太郎氏（福島原発事故調査・検証委員会委員長）へのインタビュー併録。【藤森立男・矢守克也（共編著） 福村出版 2400円】

●『増補版：〈生活防災〉のすすめ—東日本大震災と日本社会』

「いつか起こる」は今日かもしれない！—東日本大震災の被災地に生きる、地域と地域、人と人のつながり。災害とともにこれからも生きていくために日々の生活の知恵と工夫を改めて見直す、生活防災のエッセンスと東日本大震災の2つの補章を追加した最新増補版！
 【矢守克也（著） ナカニシヤ出版 1300円】

●『ワードマップ：防災・減災の人間科学』

「防災マニュアル」、「正常化の偏見」、「世直し／立て直し」、「安全・安心」、「クロスロード」など、50のキーワードをとりあげ、災害の現場に寄り添い、いのちを支えるための新たな実践を展望。各項目4〜7ページの読み切りです！
 【矢守克也・瀧美公秀（共編著） 新曜社 2400円】

●『防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション—クロスロードへの招待—』

総頒布数5万部を突破、参加型で、「正解がない」防災研修教材、防災教育教材として国内外で高い評価を得た「クロスロード」について、そのオリジナルバージョンである「神戸編」を中心として、ゲームのねらい、ゲームの進め方、解説の方法などをわかりやすく解説した参考書。
 【矢守克也・吉川肇子・編次 剛（著） ナカニシヤ出版 2000円】

●『クロスロードネクスト—続：ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション—』

新型インフルエンザ対策のツボを予言！「感染症対策編」を含む「クロスロード」解説書の第2弾新発売。「市民編」、「学校安全編」などのクロスロードの多様なバージョンの紹介。「防災すごろく」、「ぼうさいダック」他のゲームの使い方、ゲームの作り方のコツの紹介など、もりだくさんの内容。ゲームが楽しく新しい学びの世界を体験！
 【吉川肇子・矢守克也・杉浦淳吉（著） ナカニシヤ出版 2500円】

●『〈生活防災〉のすすめ—防災心理学研究ノート』

日常生活の中から防災を見直そう！（生活防災）とは、福祉、環境、教育など、防災以外の日常生活と防災とを結びつけようという考え方。だから、本書は、防災に興味・関心がない人こそオススメ。（生活防災）をキーワードに、わが国の防災が今後進むべき方向性についても縦断的に考察。「クロスロード」を活用した取り組みについても言及。
 【矢守克也（著） ナカニシヤ出版 1000円】

●『防災人間科学』

被災者が生きてきた時間に寄り添いつつ、その体験を学び、語り、伝え、防災実践の共同体を作る—阪神・淡路大震災以来、地域防災実践に深く関わってきた著者が、従来の「防災心理学」の境界を力強く踏み越え、行動し参加するフィールドの学を構築する。「リスク社会」における防災研究のあるべき姿を脱く理論と実践の融合の結晶。
 【矢守克也（著） 東京大学出版会 3800円】

●『アクションリサーチ—実践する人間科学—』

研究者自身が現場（フィールド）に入り、当事者と共に変化を巻き起こし、新しい社会を生み出していく。アクションリサーチとは、このような共同実践のこと。アクションリサーチの現場から理論まで、そして、応用から基本まで。著者の実践経験のすべてを注いで書かれた、アクションリサーチへの魅惑的な招待状。
 【矢守克也（著） 新曜社 2900円】

●『学ぶ防災教育』

防災教育とは、防災について教える（学ぶ）ことではなく、防災を通して教える（学ぶ）こと。人間や社会が、「自分はどうなりたい」、「この町をもっとよくしたい」—防災教育を、単なる防災知識・技術の伝授とではなく、人や社会の夢を実現していくための機会（チャンス）であると位置づけた画期的な書。
 【矢守克也・諏訪清二・松木伸江（著） 見洋書房 2800円】



ありがとうございました